（平成２６年６月１８日）　**鉄鋼課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成２５年１２月末	平成２６年３月末	平成２６年６月末見通し	平成２６年９月末見通し
＋３３千トン ［　２２５９〃　］ （１０１．５%）	＋９５千トン ［　２３５４〃　］ （１０４．２%）	－５千トン ［　２３４９〃　］ （９９．８%）	－５９千トン ［　２２９０〃　］ （９８．５%）
２１６３千ﾄﾝ(95.8))	２３１１千ﾄﾝ(98.2)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成25年12月末	平成25年3月末	平成26年6月末見通し	平成26年9月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 84,400 円で前年比＋12,800 円、前期比では＋6,500 円。堅調な推移で年末を迎えている。慢性化した人手不足は工事だけでなく運送関連にも影響を及ぼしている。また、メーカー値上げの転嫁未達も課題だった。だが、それら懸念要因はあるが、建設関連を中心とした需要の後押しにより市場環境は良好であり、市況は品種毎に濃淡はあるが上伸基調であった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 85800 円で前年比＋10,000 円、前期比では＋1,400 円。商況一服状態が続き、年度末になり、より一層鮮明になった。人手不足があらゆる面で遅滞を引き起こし、荷動き鈍化、市況頭打ちと市場環境を悪化させた。消費増税絡みの駆け込み需要も見られたが、活況感を現出させるほどではなかった。反面、それは後に来る反動減がある程度回避されることに繋がった。	先々に対する期待感とは裏腹に停滞感が払拭できない状況が継続している。需要の出遅れは人手不足の慢性化によるものと思われる。また、例年、需要の端境期であることも気重い市場動向を助長していた。だが、期末に近づくに連れ、底堅い需要が確認され、一部の製造業や中小物件が動き出したとの話があった。現状よりは好転するとの見方が支配的である。後は出てくる需要を各販売店が如何に取り込むかである。	様変わりのような状況は考えにくいが、底堅い需要動向を背景に、市場環境は次第に良くなると思われる。年初から積み上がった在庫は減少傾向を辿ると予想される。流通は申し込みを抑制し、必要以上の在庫は持たないという姿勢に終始するが、輸入材の増勢が阻害要因となるかもしれない。期中の市況動向は横ばいとの見方である。やはりそこには、需要の出遅れがまだ続くため、活発な市況展開は望めないと見ているのだろう。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

需給のタイト化が解消された状況で年度明けを迎えた。現状は弱含みの市況が続いており、また販売見合いの在庫量にはなっていないため、仕入れを抑える動きが継続する。いずれ、在庫は減少していくだろうが、推測としては条鋼品種のほうが鋼板類より早くピークアウトしていくのではなかろうか。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）消費税増税前の駆け込み需要による反動は予想したほどは大きくなかった。建築関連では，大型物件はないものの、倉庫、郊外型店舗などの中小物件はそこそこの動きはあるが、４～６月は需要の端境期でもあり、力強さは欠けている。ひも付きでは自動車向けや家電が増税後もさほど大きな落ち込みは見られない。７～９月は、需要期に向かい中小物件を中心に徐々に需要も回復すると予想され、今が流通の踏ん張りどころと思われる。

（愛知）４～６月は物件の谷間である。さらには慢性化する人手不足、あるいは入札不調もあって物件の出遅れが顕著となっている。ショッピングセンターのオープンが順延されたとの話も聞いている。平鋼メーカーの廃業があったが、全体への影響はすくない。薄板の店売りで安売りがあったが大きな流れにはなっていない。厚板では５月連休明けから仕事が出ている。紐付き関連を中心に忙しいが、製造業の海外シフトにより地場産業が衰退することを懸念している。